

産業振興を軸としたプロトタイプ実装都市 ～ものづくりによる「暮らし」のアップデート～

東京都墨田区（2021年度選定）

1. 地域の特徴と課題及び目標	地域の特徴 ：周囲を水辺に囲まれたまちで、小規模かつ多種多様な業種が高密度に集積している。隅田川花火大会、葛飾北斎生誕の地などの文化・芸術的資産のほか、教育機関（大学）、東京スカイツリーなどの地域資源を有する。 課題及び目標 ：事業者が持続的に「稼げる」仕組みの構築、誰もが働きやすく「健康」を維持できる社会環境の整備、地域共創による環境配慮型社会の実現、協治（ガバナンス）によるまちづくりの推進	2. 関連するゴール	
3. 取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)	医療、防災、高齢化など地域課題に応じ、スタートアップと区内企業との連携によりハードウェアを開発し、社会実験として地域に実装していく。そのプロセスにおける地域と企業とのコミュニケーションを通し、暮らしや仕組みの中に「モノ」を埋め込み、社会課題解決と地域内経済循環を促し、持続可能なまちを実現していく。		
4. 自治体SDGs推進等に向けた取組		6. 取組成果	
<ul style="list-style-type: none">■ 墨田区SDGs宣言事業（経済）：SDGsの取組内容を自主的に宣言してもらった墨田区SDGs宣言事業に加え、宣言事業者を対象としたセミナーを5回実施。■ 社会課題解決型スタートアップとの連携（経済）：区の事業や区内企業等を通じて抽出した社会課題を、スタートアップの技術・製品等により解決をめざす「プロトタイプ実証実験支援事業」を実施。■ 区民の健康度評価研究事業（社会）：千葉大学との連携により、健診・医療・介護等のデータを分析し、健康に影響を及ぼす社会的要因を地域レベルで見える化し、事業効果測定、計画策定支援、施策の提言等を行う。■ 健康経営支援事業（社会）：中小企業が集積する本区の健康経営を支援し、地域全体の健康を向上させる仕組みづくり。■ 大学との連携事業（環境）：千葉大学と「人と自然が共生する生活環境の実現に向けた調査研究」を行い、多方面と連携を図り持続可能な緑化推進、雨水利用、環境学習に発展。		<ul style="list-style-type: none">■ 墨田区SDGs宣言事業（経済）：区からのPR、東京東信用金庫との協業により、2023年度347件（2024年8月30日現在 391件）の宣言を得た。■ 社会課題解決型スタートアップとの連携（経済）：プロトタイプ実証実験支援事業として10テーマを実施。区内企業との協業パターンを2件、大学との協業パターンを3件、区内大学枠を1件、導入パターンを4件実施。■ 区民の健康度評価研究事業（社会）：千葉大学と保健・医療・介護データ等を活用し、社会的要因との相関関係を調査研究した。研究結果の報告会を行い、関係団体と地域や各圏域ごとの健康課題を定量的に分析するための見える化ツールを公開。■ 健康経営支援事業（社会）：健康経営支援検討会を設置・開催し、墨田区版健康経営支援事業のスキームを構築した。■ 大学との連携事業（環境）：屋上緑化の質を維持する管理手法や雨樋プランターの設置管理に係る実験、環境学習教材の効果的な手法等について提案があった。	
5. 取組推進の工夫		7. 今後の展開策	
<ul style="list-style-type: none">■ 墨田区SDGs宣言事業（経済）：宣言事業者を対象としたセミナーでは、中小企業診断士協会城東支部と全面的に連携し、参加者の課題を即した内容とした。■ 社会課題解決型スタートアップとの連携（経済）：スタートアップ単独ではなく、区内事業者との連携による社会課題解決を促すため、区内事業者との連携パターンに対する優遇を行っている。また、区内の大学発スタートアップの支援を目的に、区内大学枠を設けている。■ 区民の健康度評価研究事業（社会）：区全体で区民の健康度を向上させる取組を行う必要があるため、データを見える化して関係各課へ共有している。■ 健康経営支援事業（社会）：様々な経営規模の区内企業が健康経営に取り組むことができるよう、事業者と協定を締結し、事業周知やインセンティブ提供などへの協力を得ている。■ 大学との連携事業（環境）：緑化に関心を持ってもらうための親子向けの公開講座を実施する等した。		<ul style="list-style-type: none">■ ハードウェアスタートアップ拠点構想事業（経済）：「産業集積のアップデート」の実現を目指し、錦糸町エリアに開設した産業共創施設（SIC）をハブとして、文花・立花エリア、八広・東墨田エリアの各機能、プロトタイプ実証実験支援事業との連携を強化■ 墨田区SDGs宣言事業（経済）：今年度は宣言事業者を対象にSDGsセミナーを年5回実施。2024年度は地域における優良モデルを抽出する「（仮称）墨田区SDGsアワード」の創設に向け準備中。■ 区民の健康度評価研究事業（社会）：健康寿命を伸ばすため、健康課題に応じた施策を整備していく。医療・介護データや各種統計を用いた調査・分析で健康度評価を行い、区民・地域ごとの特性や課題を抽出し施策へ活用。■ 健康経営支援事業（社会）：すみだ健康チャレンジ宣言、健康経営顕彰制度をスタートし、健康経営に取り組む区内企業数を増やす。■ 大学との連携事業（環境）：緑と花の学習園のあり方について、地域や大学等と協力して検討を進めていく。	
8. 他地域への展開状況 （普及効果）	■ 産業共創施設には、全国の自治体・施設の視察が相次ぎ、施設のパートナーとして登録した自治体・施設との間で、具体的な連携方法を検討している。同施設で支援するスタートアップや区内企業が複数のメディアで取り上げられた。慶應義塾大学SFC研究所xSDG・ラボ「xSDGコンソーシアム2023年度活動報告書」において、本区の取組が掲載された。		

SDGs未来都市等進捗評価シート

2021年度選定

東京都墨田区

2024年9月

SDGs未来都市計画名

墨田区SDGs未来都市計画

自治体SDGsモデル事業

産業振興を軸としたプロトタイプ実装都市
～ものづくりによる「暮らし」のアップデート～

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(1) 計画タイトル

墨田区SDGs未来都市計画

(2) 2030年のあるべき姿

ものづくりを起源とする本区の産業集積は、持続可能な社会の実現が必要となった時代に適応し、社会課題の解決に取り組む、多様な業種の企業集積へと変容している。この集積を基盤として、持続可能な社会を構築するための新しい技術やノウハウの“プロトタイプ”が生み出され、それに携わる人たちが大きな働きがいを感じている。生み出された“プロトタイプ”は、区民・事業者・団体・家庭・大学等はもとより、関係人口までも含めた、行政区域を越えて広がる幅広いステークホルダーとの連携を通して、社会課題解決のため地域に実装されている。働きがいを感じて生き生きと暮らす人たちは、QOLの向上を目指して自らの健康や地域環境の改善に対する意識を高め、社会での活動も活発になる。こうした人たちの暮らしや活動が広がることで、リスクを恐れず新たに挑戦しようとする人を後押しする環境が整い、経済活動を端緒として地域課題の解決を志向する取組が連鎖的に発生し、地域全体に波紋のように広がっていく。自律的な経済活動によって生み出された“プロトタイプ”が実装されることにより、誰もが健やかに自分らしく暮らし、環境負荷の低減が意識された生活が実現する。そして、活動に関わる多くの人が、自らの働きがいを追求する中で、幸せな社会、持続可能な社会の実現に役立っているということを実感している。

(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール



(4) 2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2023年（現状値）	2030年（目標値）	達成度 （%）
1	区内製造業における付加価値額 【8.1, 8.9, 9.2】	2016年 1,726 億円	年 1,407 億円	2030年 1,846 億円	-266%
2	区内小売等（※）付加価値額 【8.1, 8.9, 9.2】	2016年 2,975 億円	年 2,681 億円	2030年 3,183 億円	-141%
3	65歳男性健康寿命（要介護2以上）※【3.4】	2019年 82.12 歳	2022年 82.31 歳	2030年 84 歳	14%
4	65歳女性健康寿命（要介護2以上）※【3.4】	2019年 85.85 歳	2022年 85.72 歳	2030年 87 歳	-11%
5	区に誇りを持っている区民の割合 【10.2】	2020年 61.6 %	2022年 82 %	2030年 65 %	600%
6	区域における温室効果ガス排出量 【7.a, 13.3】	2018年度 120.6 万t-CO2	2021年 116.4 万t-CO2	2030年度 63.2 万t-CO2	7%
7	区域におけるエネルギー消費量 【7.a, 13.3】	2018年度 11,882 TJ	2021年 11,619 TJ	2030年度 8,593 TJ	8%

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(5) 「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

- 指標1「区内製造業における付加価値額」及び 指標2「区内小売等（※）付加価値額」
達成度がマイナスとなった要因としては、新型コロナウイルス感染症の影響が抜けきらない段階で、原材料費や人件費長の高騰など、操業環境が厳しさを増したことが考えられる。対応策としては、墨田区産業共創施設SUMIDA INNOVATION COREを中心に、ハードウェアスタートアップ構想に基づく施策を着実に展開し、区内事業者とスタートアップやクリエイターとの共創事例を創出し、区内事業者の意識改革や稼ぐ力の獲得を一層推進する。
- 指標4「65歳女性健康寿命（要介護2以上）」
達成度がマイナスとなった要因としては生活習慣の悪化が考えられる。対応策として、健康課題に応じた施策を整備していく。医療・介護データや各種統計を用いた調査・分析で健康度評価を行い、区民・地域ごとの特性や課題を抽出し施策へ活用する。
- 指標6「区域における温室効果ガス排出量」
達成度が低い要因としては、人口（世帯数）の増加や異常気象（長引く暑い日や極端に寒い日）が影響して電気等のエネルギーの使用が減らせないことが一因と考えられる。そのため、区としては地球温暖化対策助成制度を活用した省エネルギー設備や創エネルギー設備等の導入推進と、各種イベントなどで高効率な家電製品への切り替えのPRをしていく。
- 指標7「区域におけるエネルギー消費量」
達成度が低い要因としては、人口（世帯数）の増加や異常気象（長引く暑い日や極端に寒い日）が影響して電気等のエネルギーの使用が減らせないことが一因と考えられる。そのため、区としては地球温暖化対策助成制度を活用した省エネルギー設備や創エネルギー設備等の導入推進と、各種イベントなどで高効率な家電製品への切り替えのPRをしていく。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2021年～2023年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2021年実績	2022年実績	2023年実績	2023年目標値	達成度(%)
1	【経済】 持続的に稼ぐ仕組みづくり	すみだビジネスサポートセンターのコーディネートにより生まれた新たな企業連携の取組数（累計）	2020年 13 件	2021年 23 件	2022年 35 件	2023年 50 件	2023年 45 件	116%
2	持続的に稼ぐ仕組みづくり	プロモーション効果の広告換算額	2020年 データなし	2021年 データなし	2022年 27,867,094 円	2023年 124,099,880 円	2023年 100,000,000 円	—
3	地域における産業の担い手の育成	区内における起業プロジェクト件数	2020年 120 件	2021年 109 件	2022年 104 件	2023年 99 件	2023年 300 件	-12%
4	地域における産業の担い手の育成	フロンティアすみだ塾参加者の存続率	2020年 97.4 %	2021年 データなし	2022年 98 %	2023年 98 %	2023年 97.7 %	100%
5	【社会】データヘルスの推進（ビッグデータ等科学的知見に基づく疾病予防・管理）	健診受診率 墨田区国保特定健診	2019年 49.2 %	2020年 46.5 %	2021年 49 %	2022年 47.5 %	2023年 60.0 %	-16%
6	データヘルスの推進（ビッグデータ等科学的知見に基づく疾病予防・管理）	健診受診率 後期高齢者健診	2019年 54 %	2020年 57.2 %	2021年 60 %	2023 57.8 %	2023年 増加 %	—
7	誰もが自分らしく活躍できる仕組みづくり	協治（ガバナンス）まちづくり推進基金助成件数	2020年 67 団体	2021年 78 団体	2022年 87 団体	2023年 95 団体	2023年 95 団体	100%
8	誰もが自分らしく活躍できる仕組みづくり	家庭生活において家事分担をしている割合	2018年 15.3 %	2021年 データなし	2022年 26.6 %	2022年 26.6 %	2023年 18.0 %	419%

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2021年～2023年

No	取組名	指標名	当初値	2021年実績	2022年実績	2023年実績	2023年目標値	達成度(%)
9	【環境】カーボンニュートラルの実現に向けたエネルギー消費量の削減	区域におけるエネルギー消費量	2018年 11,882 TJ	2019年 11,749 TJ	2020年 11,494 TJ	2021年 11,619 TJ	2023年 10,512 TJ	19%
10	カーボンニュートラルの実現に向けたエネルギー消費量の削減	地球温暖化防止や生物を大切にす地域活動へ参加したところのある区民の割合	2020年 5.3 %	2021年 データなし	2022年 5.6 %	2023年 データなし	2023年 8.0 %	-
11	生活環境と操業環境の調和	苦情申立人が満足した割合	2020年 75 %	2021年 64 %	2022年 61 %	2023年 52 %	2023年 80 %	-460%

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

・自律的好循環の形成に向け、2021年度中に「墨田区SDGs宣言制度」の構築を行った（2022.3.1付「墨田区SDGs宣言事業実施要綱」を制定）。より多くの区内事業者及び団体等にSDGsの視点を持ち、経営状況の整理を図ってもらうための工夫として、2021年度は、墨田区内に本拠を構える東京東信用金庫（以下、「ひがしん」という。）との連携し、ひがしんの営業担当や窓口を通じ、本事業への申請を促す仕組みを整えた。2023年3月31日現在、宣言数は347件

・2024年度は、宣言事業者のSDGsに資する取組の促進を図るため、地域における優良モデルを抽出する「（仮称）墨田区SDGsアワード」の創設に向け準備中。同アワードの実施に当たっては、区内の大企業や団体等にステークホルダーとして運営に参画してもらうべく調整中

・地域の活性化や課題解決に向けたすみだの力応援助成事業及びすみだの夢応援助成事業を実施しており、助成団体が将来的に自走できるようになるための支援を行っている。すみだの力応援助成事業のスタート応援コースでは、団体の活動実績が1年未満の団体でも応募できるように設定し、より活用しやすい制度とした。また、すみだの力・すみだの夢応援助成事業ともに、事業実施に係るアドバイスを伝える、関連のある団体等への紹介を行うなど、団体の成長につながる支援を行っている。

(3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

●指標3：「区内における起業プロジェクト件数」
達成度がマイナスとなった要因としては、起業を試みる件数は増えているが（融資あっせん件数の増）、融資実行に結びつく事業計画や財務状況等がないケースも増えており、目標に掲げた件数につながっていないと考えられる。対応策として、2023年10月オープン「産業共創施設SUMIDA INNOVATION CORE」をハードウェア・スタートアップ拠点構想における錦糸町エリアの主要施設として、スタートアップと区内事業者との連携とイノベーションを創出することに加え、プロモーションや人材育成等の面においても既存事業との補完関係を強め、産業集積のアップデートに寄与させることを目指す。

●指標5：「健診受診率（墨田区国保特定健診）」
達成度がマイナスとなった要因としては周知不足が考えられる。対応策として経営を健康面から支援できるように「墨田区版健康経営支援事業」の構築を行い、「すみだチャレンジ宣言」をした事業者に対し健康経営サポーターが伴走支援を行う仕組みを整備し、周知を強化していく。

●指標11：「苦情申立人が満足した割合」
達成度がマイナスとなった要因としては、申立人が対応内容の報告を要しない場合において、満足度を推し量れない割合が増加したと考えられる。対応策として、満足度を推し量れない場合は、評価の対象数から除外する。

(4) 有識者からの取組に対する評価

・稼げる町を掲げたSDGsの取組は具体的で高く評価される。経済活性化だけでなく、区民の健康問題に取り組んでいることは、SDGsの総合的取組として優れている。全国のモデルとなるものである。

・経済では、スタートアップ拠点を整備しプロトタイプ実証実験支援事業との連携の強化が図られている。社会では、健康度評価研究事業により、健康寿命を延ばすため、医療・介護データや各種統計を活用している。環境では、大学との連携事業で、既存公園の緑地の質を維持、屋上緑化、雨水利用は「雨どいプランター」試作品開発など成果が見えている。

2. 自治体SDGsモデル事業

(1) モデル事業又は取組名

産業振興を軸としたプロトタイプ実装都市～ものづくりによる「暮らし」のアップデート～

(2) モデル事業又は取組の概要

医療、防災、高齢化など地域課題に応じ、スタートアップと区内企業との連携によりハードウェアを開発し、社会実験として地域に実装していく。そのプロセスにおける地域と企業とのコミュニケーションを通じ、暮らしや仕組みの中に「モノ」を埋め込み、社会課題解決と地域内経済循環を促し、持続可能なまちを実現していく。

(3) 三側面ごとの取組の達成状況

取組名	取組内容	指標名	当初値	2021年実績	2022年実績	2023年実績	2023年目標値	達成度(%)
【経済】 ①-1 スタートアップの誘引：墨田区「サブス区(※)」プロジェクト ①-2 すみサポ ①-3 新もの創出拠点 ①-4 工場サテライト(工場アパート)事業 ①-5 総合交通戦略の再構築	・社会課題の解決に向けた取り組みを行う拠点や工場サテライト利用者への支援(実証実験、区内事業者紹介など)	社会課題解決型プロジェクトの実証実験数(累計)	2020年度 2件	2021年度 4件	2022年度 20件	2023年度 24件	2023年度 30件	79%
【社会】 ②-1 区民の健康度評価研究事業 ②-2 (仮称)墨田区版「健康経営」認定制度の創設 ②-3 身体活動向上プロジェクト ②-4 食育の推進 ②-5 健康危機管理体制の整備 ②-6 新保健施設等複合施設の整備	健康経営を推進するため、健康経営サポーターがインセンティブを提供するなど区内事業者がすみだ健康づくりチャレンジ宣言をしやすい体制を構築した。また、チャレンジ宣言を行った事業者を対象に、顕彰制度を設けた。これにより、健康経営の取組を活性化させることを目指す。さらに、従業員の健康の維持向上を目的としたセミナー等を実施し、健康経営の周知を図る。	健康づくりチャレンジ宣言等に取り組む企業	2020年度 データなし 0件	2021年度 データなし 0件	2022年度 0件	2023年度 18件	2023年度 30件	-
	在住・在勤等の区民や区内事業者に参加を呼びかけ、連続した1週間の歩数を測定して記録を提出してもらった「すみだ1ウィーク・ウォーク」を実施し、ウォーキングの普及及び習慣化を図る。	運動に取り組む区民の割合 国保特定健診	2020年度 35.4%	2021年度 36.3%	2022年度 37.1%	2023年度 37.3%	2023年度 40%	41%
		運動に取り組む区民の割合 後期高齢者健診	2020年度 55.5%	2021年度 57.9%	2022年度 59.4%	2023年度 60%	2023年度 60%	100%
【環境】 ③-1 環境学習の推進 ③-2 COOL CHOICEを意識したエコライフの推進 ③-3 水素社会の実現に向けた基盤整備 ③-4 緑化の推進及び生物多様性の保全 ③-5 2Rを優先とした啓発活動の強化 ③-6 プラスチックごみの削減 ③-7 地域と協働したごみ削減への取組	・環境団体・企業と連携した環境フェア等のイベント及び生物多様性保全や温暖化防止対策に資する体験型を中心とした環境学習講座を実施した。 ・オリ・パラレガシーとしてクールシェアの取組を紹介するとともにマップを配布し、普及啓発を図った。	区域におけるエネルギー消費量	2018年度 11,882 TJ	2019年度 11,749 TJ	2020年度 11,494 TJ	2021年度 11,619 TJ	2023年度 10,512 TJ	19%
	廃プラスチックの分別回収・再資源化事業の本格実施に先駆け、区内の一部地域で、モデル実施を行い、事業実施における各種課題を抽出し、検討を行った。	区民1人1日当りのごみ総量	2019年度 671g/人日	2021年度 668g/人日	2022年度 650g/人日	2023年度 617g/人日	2023年度 645g/人日	208%

(4) 「三側面ごとの取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

<p>【経済】</p> <p>●社会課題解決型プロジェクトの実証実験数(累計)</p> <p>2022年から墨田区プロトタイプ実証実験支援事業(以下「プロトタイプ実証実験」という。)を開始し、社会課題解決型スタートアップの製品・サービスを区内を実証フィールドに実証実験を実施している。</p> <p>また、2023年10月に、墨田区産業共創施設「SUMIDA INNOVATION CORE(以下「SIC」という。)」を開設し、社会課題解決にビジネス志向で取り組むスタートアップの支援を軸に、区内ものづくり企業や大学等との共創を創出することで、区内の「産業集積のアップデート」を目指している。SIC開設以降、本事業の中にプロトタイプ実証実験を組み込み、共創プランの作成から実証実験の実施、その先の社会実装に向けて一貫した共創支援を実施しており、社会課題解決型プロジェクトの実証実験数は順調に進捗しており、今後も順調に推移すると見込む。</p>
<p>【社会】</p> <p>●運動に取り組む区民の割合 後期高齢者健診</p> <p>運動習慣づくりのきっかけとなるよう、区民健康体操(すみだ花体操)の普及活動を行っている。高齢者にも取り組みやすい体操なので、介護予防活動にも取り入れられている。</p>
<p>【環境】</p> <p>●区民1人1日当りのごみ総量</p> <p>令和3年に今後10年間の廃棄物処理に係る取組方針である「墨田区一般廃棄物処理基本計画(第4次)」を策定した。本計画では、3R(リデュース、リユース、リサイクル)の中でも優先度の高いリデュース(発生抑制)とリユース(再利用)の取組を推進し、更なるごみの減量と循環型社会の実現をめざしている。本区においては、ホームページを始めとした各種媒体、イベント等でのごみ減量に関する普及啓発活動や分別が徹底されていない区民等に対して、対面での排出指導を積極的に行っており、その取組が区民等に浸透し、ごみの減量に繋がっていると考える。また、区内全域での廃プラスチックの分別収集・再資源化が本格的に始まり、ごみの減量が更に進むと見込んでいる。</p>

2. 自治体SDGsモデル事業（三側面をつなぐ統合的取組）

(1) 三側面をつなぐ統合的取組名

ハードウェア・スタートアップ拠点構想事業

(2) 三側面をつなぐ統合的取組の概要

業種の地域的な特徴を生かした産業拠点を整備し、それぞれのエリアを「区内企業とスタートアップが連携し、先端技術を生み出す新たな産業の集積地」とすることで、多様なプロトタイプの開発による社会課題解決を促し、SDGs意識の高い事業者を核とした活発な交流による気運の高揚を図る。

(3) 三側面をつなぐ統合的取組による相乗効果

経済⇄環境	経済⇄社会	社会⇄環境
<ul style="list-style-type: none"> 事業者等に環境経営の効果やメリットが浸透し、実践することで、産業・業務部門でのCO2排出量が削減される。また、環境配慮型のビジネススタイルが投資等の資金調達につながる。 SDGs宣言事業者のうち、内容が環境に関わるもの347者中233者（令和6年8月27日現在） 	<ul style="list-style-type: none"> SDGs宣言事業者のうち、内容が社会に関わるもの347者中320者 自殺率は、社会的孤立が増悪したことで、増加した可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康に欠かせない良好な生活環境に対する区民等の意識向上により、当事者意識をもって環境配慮型のライフスタイルを実践、継続することで環境負荷の低減につながる。

(4) 三側面をつなぐ統合的取組の達成状況

No	指標名	当初値	2021年実績	2022年実績	2023年実績	2023年目標値	達成度(%)
1	【経済→環境】 産業部門におけるCO ₂ 排出量	2018年 16.8 万t-CO ₂	2019年度 16 万t-CO ₂	2020年度 15 万t-CO ₂	2021年度 14 万t-CO ₂	2023年度 14.8 万t-CO ₂	125%
2	【経済→環境】 業務部門におけるCO ₂ 排出量	2018年 32.8 万t-CO ₂	2019年度 32 万t-CO ₂	2020年度 29 万t-CO ₂	2021年度 29.7 万t-CO ₂	2023年度 30.5 万t-CO ₂	135%
3	【環境→経済】 SDGs 宣言団体数	2020年 0 件	2021年度 0 件	2022年度 257 件	2023年度 347 件	2023年度 60.0 件	578%
4	【経済→社会】 自殺死亡率（10万人対）	2020年 13.8 人	2021年度 16 人	2022年度 15 人	2023年度 15 人	2023年度 13.8 人	90%
5	【社会→経済】 就労阻害要因のない単身被保護世帯の就労率	2019年 39.9 %	2021年度 41 %	2022年度 40 %	2023年度 63 %	2023年度 53.0 %	176%
6	【社会→環境】 環境ボランティア登録者の実働割合	2020年 69.0 %	2021年度 68 %	2022年度 70 %	2023年度 70 %	2023年度 73.0 %	25%
7	【環境→社会】 呼吸器症状有症率（6歳児、基準年（2016年）との比較）	2018年 -4.4 %	2020年度 -3.5 %	2021年度 -3.7 %	2022年度 調査中 %	2023年度 -5.0 %	-

(5) 自律的好循環の形成に向けた取組状況

・「墨田区SDGs宣言」を行った事業者・団体を対象に、中小企業診断士協会城東支部の協力により、個々の活動を後押しすることを目的としたセミナーを年5回開催した。

・2022年度にプロトタイプ実証実験支援事業を開始し、行政課題とスタートアップが有する製品・サービス等をマッチングさせ、課題解決をめざす実証実験を計10件（2022年度採択5件、2023年度採択5件）実施した。

・「ハードウェアスタートアップ拠点構想事業」の一環として、墨田区産業共創施設「SUMIDA INNOVATION CORE（SIC）」を2023年10月末に開設した。社会課題解決をビジネス志向で目指すスタートアップと区内事業者や大学等との共創支援の仕組みを構築し、区内の産業集積のアップデートの実現を目指している。域内の自律的好循環の形成に向けて、SICをハブに、区外からスタートアップや大企業を誘引し、区内事業者等との共創を推進していく。

2. 自治体SDGsモデル事業（三側面をつなぐ統合的取組）

(6) 「三側面をつなぐ統合的取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

●指標No.3「SDGs 宣言団体数」

達成度が良好な要因は、区内で活動を行う事業者・団体を要件とし、区内の事業者・団体の限定しなかったこと、宣言内容に対する区の審査を行わずにハードルを下げたこと、募集に当たり、地域金融機関の積極的な協力を得たことが考えられる。

SDGs宣言は、事業者・団体へのSDGsに対する関心を喚起するための第一歩であるため、今後は宣言事業者・団体の実際の活動を支援する取組を展開していく。

●指標No.6「環境ボランティア登録者の実働割合」

達成度が低い要因は、

(エコライフサポーター)毎月実施している定例会やイベントの実施等においては、登録者は原則参加としているため。

(緑と花のサポーター)環境イベントや緑と花の学習園の花壇管理作業等へ定期的に参加しているため。

と考えられる。登録者の高齢化が進んでいるため、今後はボランティア活動を継続するための手段や方法を検討していく。

(7) 有識者からの取組に対する評価

・医療、防災、高齢化など地域課題解決に向けて、スタートアップと区内企業との連携で試作開発と社会実験とで地域に実装していく手法はモノづくりの街、墨田の優位性を生かしており、評価できる。

東京都墨田区 第1期SDGs未来都市計画：計画期間2021年～2023年

(1) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2023年 (実績)	2030年 (目標値)	達成度 (%)	第2期計画（または独自計画）のKPIへの反映状況
1	区内製造業における付加価値額【8.1, 8.9, 9.2】	2016年 1,726 億円	2022年 1,407 億円	2030年 1,846 億円	-266%	目標達成度が低いため、第2期計画では一層の対策強化を行い取組達成へ向け推進を図る予定。
2	区内小売等（※）付加価値額【8.1, 8.9, 9.2】	2016年 2,975 億円	2022年 2,681 億円	2030年 3,183 億円	-141%	目標達成度が低いため、第2期計画では一層の対策強化を行い取組達成へ向け推進を図る予定。
3	65歳男性健康寿命（要介護2以上）※【3.4】	2019年 82.12 歳	2022年 82.31 歳	2030年 84 歳	10%	目標達成度が低いため、第2期計画では一層の対策強化を行い取組達成へ向け推進を図る予定。
4	65歳女性健康寿命（要介護2以上）※【3.4】	2019年 85.85 歳	2022年 85.72 歳	2030年 87 歳	-11%	目標達成度が低いため、第2期計画では一層の対策強化を行い取組達成へ向け推進を図る予定。
5	区に誇りを持っている区民の割合【10.2】	2020年 61.6 %	2022年 82 %	2030年 65 %	600%	目標を大幅に達成し、2期計画外でも引き続き取り組みを推進する。
6	区域における温室効果ガス排出量【7.a, 13.3】	2018年 121 万t-CO ₂	2021年 116.4 万t-CO ₂	2030年 63.2 万t-CO ₂	7%	目標達成度が低いため、第2期計画では一層の対策強化を行い取組達成へ向け推進を図る予定。
7	区域におけるエネルギー消費量【7.a, 13.3】	2018年 11,882 TJ	2021年 11,619 TJ	2030年 8,593 TJ	8%	目標達成度が低いため、第2期計画では一層の対策強化を行い取組達成へ向け推進を図る予定。

(2) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2023年 (実績)	2023年 (目標値)	達成度 (%)	第2期計画（または独自計画）のKPIへの反映状況
1	【経済】 持続的に稼ぐ仕組みづくり	すみだビジネスサポートセンターのコーディネートにより生まれた新たな企業連携の取組数（累計）	2020年 13 件	2023年 50 件	2023年 45 件	116%	目標を大幅に達成し、2期計画外でも引き続き取り組みを推進する。
2	持続的に稼ぐ仕組みづくり	プロモーション効果の広告換算額	2020年 データなし	2023年 124,099,880 円	2023年 100,000,000 円	-	順調に進捗しており、引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
3	地域における産業の担い手の育成	区内における起業プロジェクト件数	2020年 120 件	2023年 99 件	2023年 300 件	-12%	目標達成度が低いため、第2期計画では一層の対策強化を行い取組達成へ向け推進を図る予定。
4	地域における産業の担い手の育成	フロンティアすみだ塾参加者の存続率	2020年 97.4 %	2023年 98 %	2023年 97.7 %	100%	順調に進捗しており、引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
5	【社会】データヘルスの推進（ビックデータ等科学的知見に基づく疾病予防・管	健診受診率 墨田区国保特定健診	2019年 49.2 %	2022年 47.5 %	2023年 60.0 %	-16%	目標達成度が低いため、第2期計画では一層の対策強化を行い取組達成へ向け推進を図る予定。
6	データヘルスの推進（ビックデータ等科学的知見に基づく疾病予防・管理）	健診受診率 後期高齢者健診	2019年 54 %	2023 57.8 %	2023年 増加 %	-	順調に進捗しており、引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
7	誰もが自分らしく活躍できる仕組みづくり	協治（ガバナンス）まちづくり推進基金助成件数	2020年 67 団体	2023年 95 団体	2023年 95 団体	100%	順調に進捗しており、引き続き第2期計画で進捗を確認していく。
8	誰もが自分らしく活躍できる仕組みづくり	家庭生活において家事分担をしている割合	2018年 15.3 %	2022年 26.6 %	2023年 18.0 %	419%	目標を大幅に達成し、2期計画外でも引き続き取り組みを推進する。
9	【環境】カーボンニュートラルの実現に向けたエネルギー消費量の削減	区域におけるエネルギー消費量	2018年 11,882 TJ	2021年 11,619 TJ	2023年 10,512 TJ	19%	目標達成度が低いため、第2期計画では一層の対策強化を行い取組達成へ向け推進を図る予定。
10	カーボンニュートラルの実現に向けたエネルギー消費量の削減	地球温暖化防止や生物を大切に地域活動へ参加したことのある区民の割合	2020年 5.3 %	2023年 データなし	2023年 8.0 %	-	目標達成度が低いため、第2期計画では一層の対策強化を行い取組達成へ向け推進を図る予定。
11	生活環境と操業環境の調和	苦情申立人が満足した割合	2020年 75 %	2023年 52 %	2023年 80 %	-460%	目標達成度が低いため、第2期計画では一層の対策強化を行い取組達成へ向け推進を図る予定。

(3) 三側面ごとの取組の達成状況（自治体SDGsモデル事業又は特に注力する先導的取組）

No	取組名	取組内容	指標名	当初値	2023年 (実績)	2023年 (目標値)	達成度 (%)	第2期計画（または独自計画）のKPIへの反映状況
1	【経済】 ①-1 スタートアップの誘引：墨田区「サブス区（※）」プロジェクト ①-2 すみサポ ①-3 新もの創出拠点 ①-4 工房サテライト（工場アパート）事業 ①-5 総合交通戦略の再構築	・社会課題の解決に向けた取り組みを行う拠点や工房サテライト利用者への支援（実証実験、区内事業者紹介など）	低炭素で持続可能なまちづくりの先導モデルとなる建物	2020年度 2 件	2023年度 25 件	2023年度 30 件	82%	順調に進捗しており、第2期計画に記載し、引き続き進捗を確認していく。

東京都墨田区 第1期SDGs未来都市計画：計画期間2021年～2023年

No	取組名	取組内容	指標名	当初値	2023年 (実績)	2023年 (目標値)	達成度 (%)	第2期計画（または独自計画）のKPIへの反映状況
2	【社会】 ②-1 区民の健康 度評価研究事業 ②-2 (仮称) 墨 田区版「健康経営」 認定制度の創設 ②-3 身体活動向 上プロジェクト ②-4 食育の推進 ②-5 健康危機管 理体制の整備 ②-6 新保健施設 等複合施設の整備	健康経営を推進するため、 健康経営サポーターがイン センティブを提供するなど区 内事業者がすみだ健康づく りチャレンジ宣言をしやすい 体制を構築した。また、チャ レンジ宣言を行った事業者 を対象に、顕彰制度を設 けた。これにより、健康経営 の取組を活性化させること を目指す。さらに、従業員の 健康の維持向上を目的 としたセミナー等を実施し、 健康経営の周知を図る。	健康づくりチャレンジ宣 言等に取り組む企業	2020年 データ なし 件	2023 年度 18 件	2023 年度 30 件	-	目標達成度が低いため、第2期計画では一層の対策強化 を行い取組達成へ向け推進を図る予定。
			運動に取り組む区民の 割合 国保特定健診	2020年 度 35.4 %	2023 年度 37.3 %	2023 年度 40 %	41%	
			運動に取り組む区民の 割合 後期高齢者健診	2020年 度 55.5 %	2023 年度 60 %	2023 年度 60 %	100%	
3	【環境】 ③-1 環境学習の 推進 ③-2 COOL CHOICE を意識した エコライフの推進 ③-3 水素社会の 実現に向けた基盤整 備 ③-4 緑化の推進 及び生物多様性の 保全 ③-5 2R を優先と した啓発活動の強化 ③-6 プラスチックご みの削減 ③-7 地域と協働 したごみ削減への取 組	・環境団体・企業と連携し た環境フェア等のイベント及 び生物多様性保全や温暖 化防止対策に資する体験 型を中心とした環境学習 講座を実施した。 ・オリ・パラレガシーとして クールシェアの取組を紹介 するとともにマップを配布し、 普及啓発を図った。	区域におけるエネル ギー消費量	2018年 度 11,882 TJ	2021 年度 11,619 TJ	2023 年度 10,512 TJ	19%	目標達成度が低いため、第2期計画では一層の対策強化 を行い取組達成へ向け推進を図る予定。
			区民1人1日当たり のごみ総量	2019年 度 671 g/人日	2023年 度 617 g/人日	2023 年度 645 g/人日	208%	

(4) 三側面をつなぐ統合的取組の達成状況（自治体SDGsモデル事業又は特に注力する先導的取組）

No	指標名	当初値	2023年 実績	2023年 目標値	達成度 (%)	第2期計画（または独自計画）のKPIへの反映状況
1	【経済→環境】 産業部門におけるCO ₂ 排出量	2018年 16.8 万t-CO ₂	2021年度 14 万t-CO ₂	2023年度 14.8 万t-CO ₂	125%	目標を大幅に達成し、2期計画外でも引き続き取り組みを 推進する。
2	【経済→環境】 業務部門におけるCO ₂ 排出量	2018年 32.8 万t- CO ₂	2021年度 29.7 万t-CO ₂	2023年度 30.5 万t-CO ₂	135%	目標を大幅に達成し、2期計画外でも引き続き取り組みを 推進する。
3	【環境→経済】 SDGs 宣言団体数	2020年 0 件	2023年度 347 件	2023年度 60.0 件	578%	目標を大幅に達成し、2期計画外でも引き続き取り組みを 推進する。
4	【経済→社会】 自殺死亡率（10万人対）	2020年 13.8 人	2023年度 15 人	2023年度 13.8 人	90%	目標達成度が低いため、第2期計画では一層の対策強化 を行い取組達成へ向け推進を図る予定。
5	【社会→経済】 就労阻害要因のない単身被保護世帯の就労率	2019年 39.9 %	2023年度 63 %	2023年度 53.0 %	176%	目標を大幅に達成し、2期計画外でも引き続き取り組みを 推進する。
6	【社会→環境】 環境ボランティア登録者の実働割合	2020年 69.0 %	2023年度 70 %	2023年度 73.0 %	25%	目標達成度が低いため、第2期計画では一層の対策強化 を行い取組達成へ向け推進を図る予定。
7	【環境→社会】 呼吸器症状有症率（6歳児、基準年（2016年）との比較）	2018年 -4.4 %	2022年度 調査中 %	2023年度 -5.0 %	-	目標達成度が低いため、第2期計画では一層の対策強化 を行い取組達成へ向け推進を図る予定。

（5）第1期SDGs未来都市計画の進捗評価結果を踏まえた総括

<p><特筆すべき事業内容></p> <p>（1）2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況</p> <ul style="list-style-type: none">●指標1「区内製造業における付加価値額」及び指標2「区内小売等（※）付加価値額」 <p>・達成度がマイナスとなった要因としては、新型コロナウイルス感染症の影響が抜けきらない段階で、原材料費や人件費の高騰など、操業環境が厳しさを増したことが考えられる。対応策としては、墨田区産業共創施設SUMIDA INNOVATION COREを中心に、ハードウェアスタートアップ構想に基づく施策を着実に展開し、区内事業者とスタートアップやクリエイターとの共創事例を創出し、区内事業者の意識改革や稼ぐ力の獲得を一層推進する。</p> <ul style="list-style-type: none">●指標4「65歳女性健康寿命（要介護2以上）」 <p>・達成度がマイナスとなった要因としては生活習慣の悪化が考えられる。対応策として、健康課題に応じた施策を整備していく。医療・介護データや各種統計を用いた調査・分析で健康度評価を行い、区民・地域ごとの特性や課題を抽出し施策へ活用する。</p> <p>（2）自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況</p> <ul style="list-style-type: none">●指標3：「区内における起業プロジェクト件数」 <p>・達成度がマイナスとなった要因としては、起業を試みる件数は増えているが（融資あっせん件数の増）、融資実行に結びつく事業計画や財務状況等がないケースも増えており、目標に掲げた件数につながっていないと考えられる。対応策として、2023年10月オープンした「産業共創施設SUMIDA INNOVATION CORE」をハードウェア・スタートアップ拠点構想における錦糸町エリアの主要施設として、スタートアップと区内事業者との連携とイノベーションを創出することに加え、プロモーションや人材育成等の面においても既存事業との補完関係を強め、産業集積のアップデートに寄与させることを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none">●指標5：「健診受診率（墨田区国保特定健診）」 <p>・達成度がマイナスとなった要因としては周知不足が考えられる。対応策として経営を健康面から支援できるように「墨田区版健康経営支援事業」の構築を行い、「すみだチャレンジ宣言」をした事業者に対し健康経営サポーターが伴走支援を行う仕組みを整備し、周知を強化していく。</p> <ul style="list-style-type: none">●指標11：「苦情申立人が満足した割合」 <p>・達成度がマイナスとなった要因としては、申立人が対応内容の報告を要しない場合において、満足度を推し量れない割合が増加したと考えられる。対応策として、満足度を推し量れない場合は、評価の対象数から除外する。</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">●墨田区SDGs宣言事業（経済）：区からのPR、東京東信用金庫との協業により、2023年度347件（2024年8月30日現在 391件）の宣言を得た。●社会課題解決型スタートアップとの連携（経済）：プロトタイプ実証実験支援事業として10テーマを実施。区内企業との協業パターンを2件、大学との協業パターンを3件、区内大学枠を1件、導入パターンを4件実施。●区民の健康度評価研究事業（社会）：千葉大学と保健・医療・介護データ等を活用し、社会的要因との相関関係を調査研究した。研究結果の報告会を行い、関係団体と地域や各圏域ごとの健康課題を定量的に分析するための見える化ツールを公開。●健康経営支援事業（社会）：健康経営支援検討会を設置・開催し、墨田区版健康経営支援事業のスキームを構築した。●大学との連携事業（環境）：屋上緑化の質を維持する管理手法や雨樋プランターの設置管理に係る実験、環境学習教材の効果的な手法等について提案があった。 <p><課題></p> <p>各事業における周知不足</p> <p><今後の展望></p> <p>課題である周知不足を改善するため、各事業の所管からの広報活動のみに限らず、区を挙げての広報活動に力を入れる。達成度の数値が伸び悩んでいるKPIについては、第2期計画においてより一層の対策強化を行い、引き続き達成に向けた取組を実施する。</p>

（6）有識者からの取組に対する評価

・墨田区のSDGs事業は、スタートアップと地元企業により「モノ」と「コト」を創り出しており、非常に実践型であり、他のSDGs未来都市のお手本になる。同時にSDGs推進は自治体だけでなく、中小企業の経営の体質の改善（女性の管理職への登用や男性の育児休業の取得など）が不可欠である。この視点においても地元金融機関と連携した改善研修やアドバイスもしており、この事業での成果も期待したい。